
風になった初恋。

天龍有我

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風になった初恋。

【Nコード】

N0550A

【作者名】

天龍有我

【あらすじ】

信じれるのはお金だけ……。そんな性格が屈折した真里が不思議な男に出会う。人とは考え方が違うこの男に真里はだんだんと興味をもち初めていく。

確かに感じた運命。

私の名前は小林真里。

18才の高校三年。

今の仕事はキャバクラ。

キャバクラといってもこの町にある小さな店。

男は癒しを求めて店にやってくる。

私から見たら男なんて所詮は金だ。

金のない男なんてただのク

ズ……。

男なんて信じちゃいけない。

どうせ体目当ての生きもの。

裏切られるだけだから……。

私が信じられるのはお金だけ。

そう思ってた。

あいつに会うまでは……。

風のように現れて風のように消えていった、あの男。

私は忘れない。あいつに出会ったこと。

あいつが残した数々の伝説……。メッセージ……。

あいつのおかげで人を好きになる楽しさが分かった。

私の初恋のひと……。

その男に出会ったのは今から五カ月前の12月下旬の寒い夜……。私はバイトを終えて、家までの帰り道。

突然あいつに出会った。

「あの客さあ！マジ足とかベタベタ触ってくるからマジついでいよお

~~~~!.....そう!そう!いつもくるオヤジ!マジっざいから  
恵理も気を付けなあ!」

私はバイト仲間の恵理に電話でグチを言いながら歩いていた。

「でもね!時計貰っちゃった!これ売ったら高いよあ。あのオヤジ  
もなかなか持つてるね。お金。」

いつものように話してる。こんなに楽しんで稼げるバイトはない。  
私はこのバイトに生きがいを感じていた。

ちょうどスーパーの角を曲がった時、二人の男が近づいてきた。

「ちょっといい?」

話かけられた。

私はまた明日ねつと電話を切って、話した。

「なんですか?」

ナンパか.....。くだらない.....。

「どっか遊びに行かない??」

やっぱり.....。

「忙しいんで。」

私は断った。明日もバイトあるし、なにより疲れていた。

「いいじゃん！少しぐらい。車乗って！」

「いや、いいです。」

「冷たいなあ！乗りなつて！」

「嫌です！」

かなりしつこかった。

早くこいつらから逃れて、休みたい。

そんなことを考えていたら、ナンパしてきた二人の男の一人が私の腕をつかんで無理矢理車の方にひっぱってきた。

痛い……………。

私は必死で逃げようとした。

「やめてください！放して！」

そう叫んだ。でも男たちはやめようとしなない。

「少しぐらいいいじゃんか！遊ぼっぜー！」

「やめて！やめてよー！」

思いつきり叫んだ！

その時！

ドン！！

謎の男がナンパ男にぶつかってきた。

「いてえな！何すんだよ！！！」

ナンパ男がそう言つと、

「おまえらそんな方法じゃないと女落せないんだあ〜〜！惨めだね  
」！」

謎の男がそう言つと

「うるせえんだよ！おまえに関係ねえだろ！

二人に囲まれている。

私はどうしよう……とオドオドしてると、

「刺すよ。」

謎の男はポケットの中からナイフを出した。  
それを見た二人は、

「マジかよ……。こいつヤバイよ……。」

「逃げるぞ！」

二人は車に乗り、慌てて逃げに行った。

「バアバア〜〜イ！」

笑いながら手をふっている。  
そしてポケットの中からタバコを出して一服してる。

「あの……。ありがとう。」

私はお礼を言った。

「面白かった。」

想像もしていない言葉が返ってきた。私は驚いて、

「えっ？」

と思わず言った。

「最近、刺激がたりなくてね！あんなことが定期的にあると面白いね。」

今まで出会ってきた男とはどこかが違う……。すこし興味がわいてきた。

「とりあえず帰りな！」

「もうすこし話そうよ！」

もうすこし……。なんでそんなこと言っただらう??？分かんない……。  
もっとこの男について知りたい。そんな考えが生まれていた。

「いや、バイトで疲れてるから帰るよ。」

こんな経験初めてだった。今まで断られることはなかったのに……。

……悔しい。

とか思ってたらもう帰り初めていた。

「待ってよ……！」



走って追い掛けた。

この男に会ったことで私の人生が変わった。

## 帰り道。

「ちょっと待ってって!」

「ついてくんなくて!」

「なんで?」

私は腕をつかむ。

「触んなって!邪魔くさい。」

「なんでよ!」

「だいたい、おまえなあ!さっきの二人断つといてなんでついてくるん?理屈的におかしいだろ!」

「だつてえ……………いいじゃん!帰ろ!」

「自分んちに帰れって!」

そんなこと言いながら二人で歩いている。  
私んちの方向と一緒だ。

もしかして近いのかな？

「家こつちのなの？」

「まあ……そうだな。」

しばらくして……。

「ここだろ？」

「えっ？」

そこは私んちの前だった。

「だろ？」

「なんで知ってるの？私んち。」

するとポケットのから紙をとりだし私に見せた。

「落ちてたぞ！」

「ああ〜！私の年賀状！返して！」

それは今日、ポストに入れようとしていた年賀状だった。

「明けましておめでとう。去年は最高の一年だったけど今年はもっと楽しくしようね……………」

「読まないで!!」

「はい!もう落とすな!!」

返してくれた。

「もお〜読まないでよ!!」

「何を怒ってん?落とした年賀状を拾ってあげたんだぞ!落とした年賀状を拾ってあげたってのはどうゆうことだ?おまえの来年を拾ったんだぞ!おまえの来年を拾ったってのはどうゆうことだ?おまえの未来を拾ったんだぞ!おまえの未来を拾ったってのはどうゆうことだ?おまえのこれから一生涯を拾ったんだぞ!おまえのこれから一生涯を拾ったってのはどうゆうことだ?命の恩人じゃなか!命の恩人に怒れるほど腐った人生を送るな!コラー!!」

「……………理屈っぱすぎる!!」

「まあとりあえず帰れよ」

「ヤダ!!」

ピンポンー!!

私の家のインターホンを押して

「じゃー!」

「あ〜〜!待ってよ!また会える?」

「あそこのスーパーでバイトしてるからいつでもこいよ!」

「わかった。絶対行くから!」

その男は走って消えていった。

名前もきいてなかったなあ……………。

また会いたい。

そんな気持ちが私のなかで芽生えた。

こんなことでこの気持ちが生まれるのはおかしいかもしれない……………。

今まで男を利用するだけ利用してきた私は納得できなかった。

そしてあの男にすこしだけ興味がわいてきた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0550a/>

---

風になった初恋。

2010年10月17日04時52分発行